

No.89

2010

4.17発行



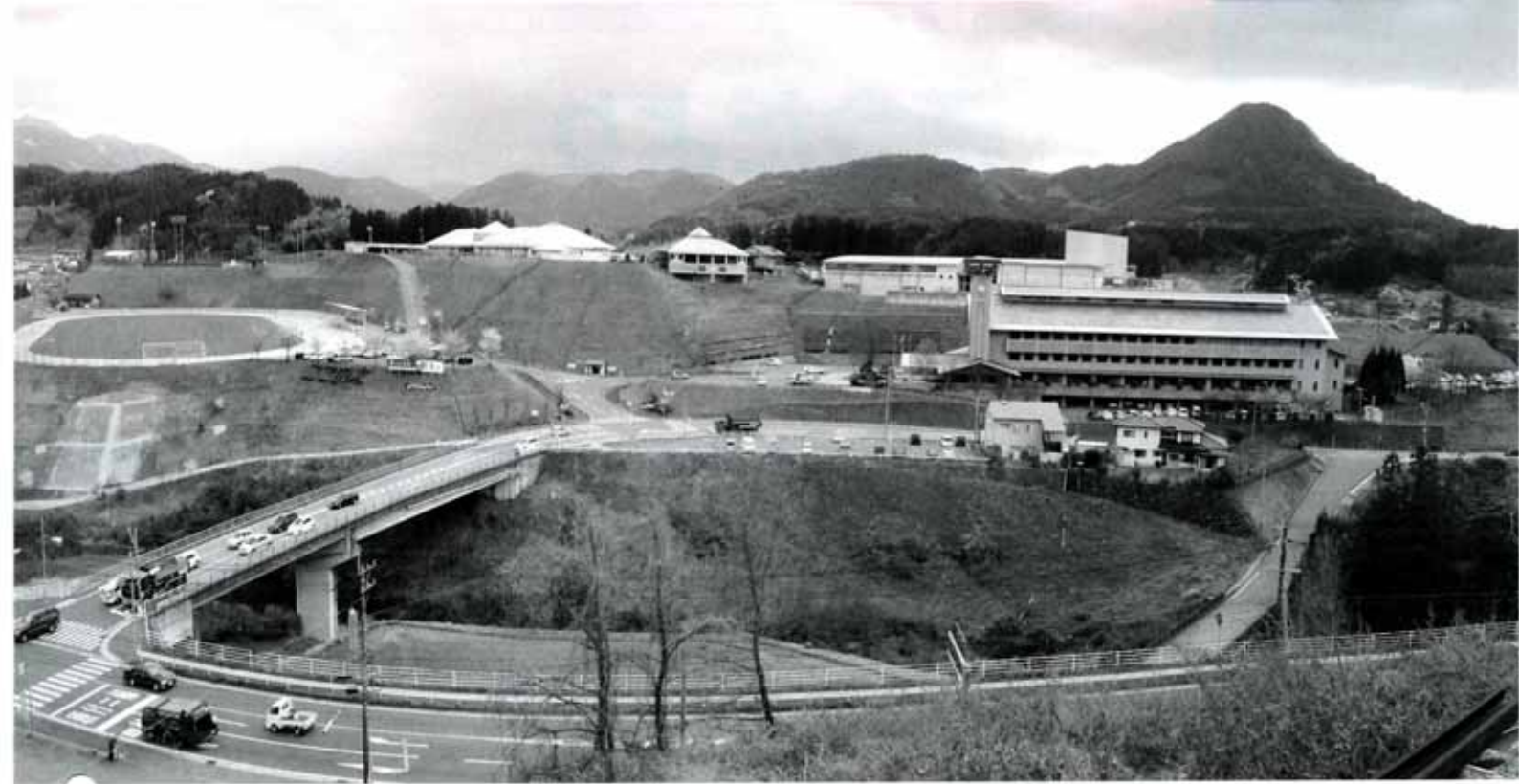
議会だより

ここのえ

3月定例会

- 22年度予算 P.2~3
- 人事案件・陳情・要望 P.4
- 常任委員会報告・質疑 P.5~6
- 大吊橋周辺対策特別委員会報告 P.7
- 一般質問 P.8~10
- わたしのひとこと 宝泉寺 関屋 典子さん P.11
松木川下南 梅木 淳司さん



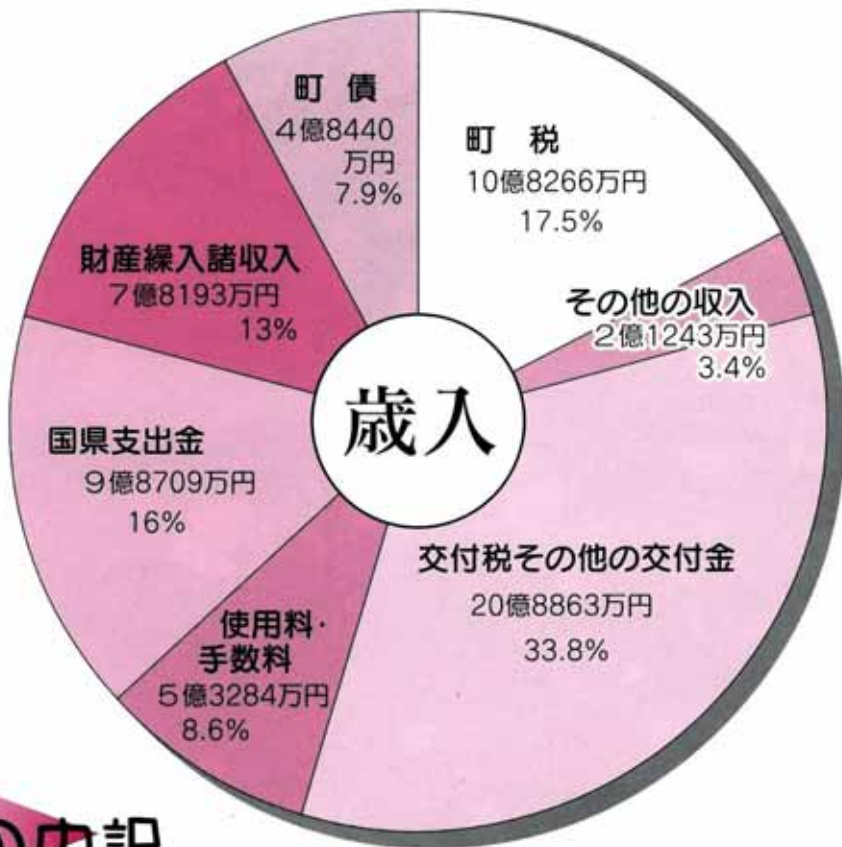


どこに建てる統合中学校！ 建設予定地！本年度設計！

億円でスタート！！

平成22年第一回定例議会は3月4日から19日までの16日間の会期で開かれました。一般会計予算・特別会計予算・条例の改正6件・制定4件・陳情2件・要望2件等を慎重に審議いたしました。

依然として景気回復が見込めない事から、町税7120万円、入湯税550万円等多くが減収見込みとなりました。景気の早期回復を望みます。新たに4月より子ども手当月額13000円の1290人分、1億6770万円などが予算化されています。



算の内訳

22年度予算

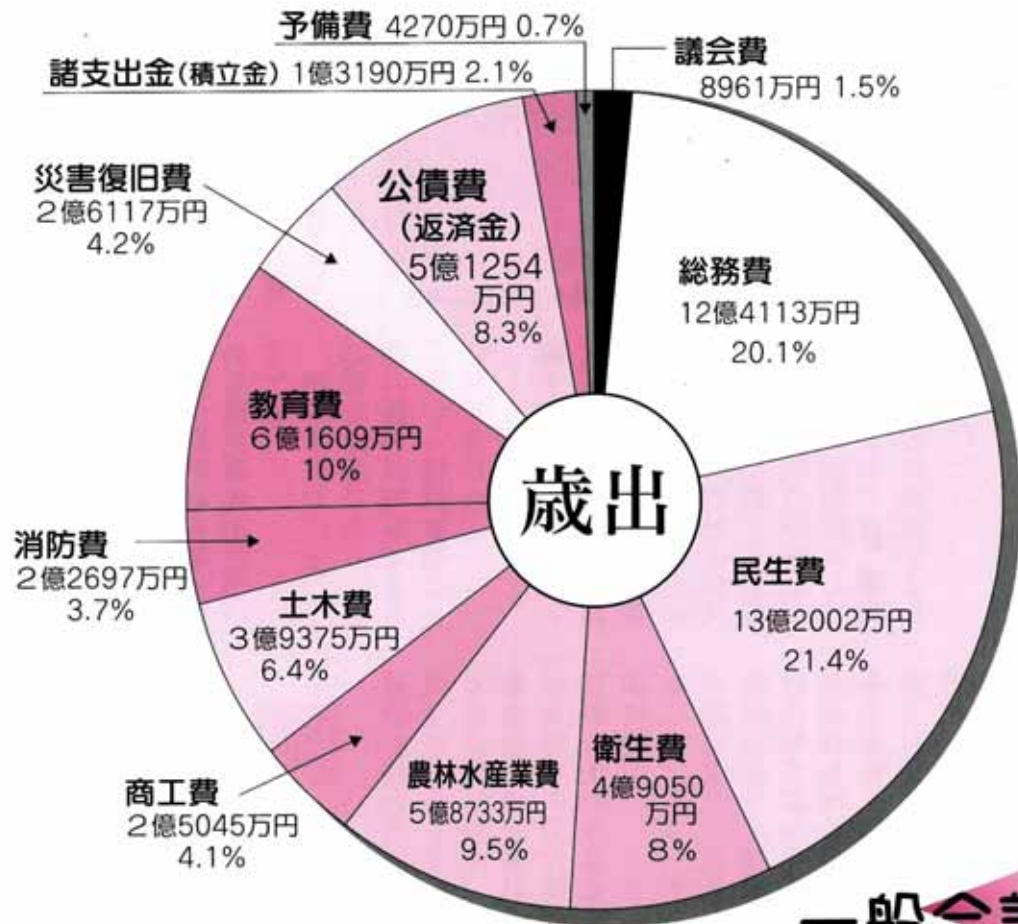
一般会計 61億 7,000万円
 特別会計 33億 289万4千円

- ・国民健康保険特別会計 …………… 15億9,897万4千円
- ・水道特別会計 …………… 1億1,644万4千円
- ・飯田高原診療所特別会計 …………… 8,720万2千円
- ・老人保険特別会計 …………… 115万9千円
- ・介護保険特別会計 …………… 13億3,646万6千円
- ・介護サービス事業特別会計 …………… 2,817万7千円
- ・後期高齢者医療特別会計 …………… 1億3,385万1千円
- ・同和住宅資金貸付事業特別会計 …………… 62万1千円



一般会計当初予算 61.7

- ◆ 畜産補助に4800万円
 子牛一頭当り3万円×1600頭分を価格支援緊急対策事業として予算化しました。
- ◆ 統合中学校の設計委託費5300万計上
 25年春新しい中学校で入学式が予定されています。



一般会計予

人権擁護委員の推薦につき
意見を求められ同意



赤峰佐代子さん
(67才)
湯 坪

意見を聞いて同意とは
町長は、人格識見高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について理解のある者等の中から、議会の意見を聞いて、候補者を推薦しなければならぬ。
(人権擁護委員法)

固定資産評議審査委員会
委員の選任に同意



小川 一三さん
(65才)
野 矢

選任同意とは
町長は、固定資産の評価について学識経験を有する者のうちから、議会の同意を得て、選任する。
(地方税法)

九重町教育委員の
任命に同意



佐藤 住子さん
(61才)
岩ノ上

任命同意とは
町長は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し識見を有する者のうちから、議会の同意を得て、任命する。
(地方教育行政の組織及び運営に関する法律)

みなさん方の陳情や
要望等はこちらになりました。

- 陳 情
- 要 望
- 道 路 認 定

●川上二区長 堀増男氏と寺小組合長 長野英雄氏他3名からの「町道編入を求める陳情」は、



町道編入の陳情が出された川上

周辺は住宅も建ち生活道路になっており採択することになりました。

●ダム・発電関係市町村全国協議会々長 辻一幸氏からの「電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書提出について」は、

関係市町村にとって必要な財源であり、要望の趣旨は理解できることから採択することになりました。

●平和市長会議会長

(広島市長) 秋葉忠利氏と副会長(長崎市) 田上富久氏からの「核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の決議について」は、唯一の被爆国として当然のことであり採択することに決定しました。

発 議

道路認定については、町道橋場支線(延長44m) 中央五と町道奥双石支線(延長769m)を町道認定しました。

◆改正貸金業法の早期完全施行等を求める意見書を国に提出。

◆電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書を国に提出。

◆「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のNPTR再検討会議での採択に向けた取り組みを求める意見書を国に提出。

◆米軍普天間飛行場の陸上自衛隊日出生台演習場への訓練移転に反対する決議。

●全国青年司法書士協議会会長 小山田泰彦氏からの「改正貸金業法の早期完全施行等を求める陳情」は、採択しました。

総務建設産業常任委員会

豊後中村活性化交流施設

豊後中村活性化交流施設については、野上地区の活性化及び住民相互の交流並びに交通センタ―として広く住民の利用に供する目的で設置するための条例設置で全員賛成で可決しました。



消防団員定数削減

消防団条例の一部改正については、ここ数年消防団員の退団が多いため、現在団員数も417名と定数450名を大幅に割り込み、今後増加は見込めないため定数を420名に削減するもので、全員賛成で可決しました。

野上地区の活性化が期待される中村駅舎
豊後中村活性化交流施設

飯田高原診療所に新しく

野瀬善明先生が来る

飯田高原診療所に4月から新たに常勤医師を迎えるための条例整備で、これまでは非常勤医師を想定した報酬規定を日額5万5千円から年額1500万円に改正するもので全員賛成で可決しました。



地域医療に貢献してもらいたい飯田高原診療所

コミュニティバス本格運行

コミュニティバス等運行事業については、野上地区の寺床線、小平谷線に南山田地区のうらが線等の交通空白地帯で本格運行を実施するもので全員賛成で可決しました。



区分	使用料
中学生以上	1回の乗車につき 300円
小学生	1回の乗車につき 150円

☆6歳以下の就学前児童は無料

九重ふるさと館の指定管理は継続

ふるさと館の指定管理の引き続き九重ふるさと館の指定については、館活性化協議会々長飯田かよ美氏に指定するに全員賛成で可決しました。

九重町過疎自立促進計画表に次の事業を加える

- 林道青野山線舗装工事
- 飯田地区公共駐車場整備事業
- (飯田公民館跡地)
- 前辻線道路改良舗装工事
- 梅の木作草線道路改良舗装工事
- 隣保館外壁等改修工事
- 小中学校ネットワーク整備事業

九重町道路占用並びに占用料徴収に関する条例の一部を改正

大分県道路占用料徴収条例の一部を改正する条例制定に伴い、九重町においても該当条

教育・民生・観光常任委員会

ふれあい生活課

Q 福祉予算が、増加の一途だが、対策は。

A ケアプランの見直しを本年度は進めたい。また、「いきいきサロン」活動を重点的に強化し、各地域で広げたい。

Q 新型インフルエンザのワクチン接種人数が少なかつたと聞けが、状況は。

A 接種者は、3月15日現在で1260名で、予定を大幅に下回っている。要因は、症状が比較的軽症であったためと思われる。

教育委員会

Q 学校統合の進捗状況は。

A 設計業者の選択、プロポーザル作業は、3月15日に決定した。

今後は、建設委員会に報告し、承認を受け、基本設計と進んでいく予定である。

Q 民間校長の推進を図るべきでは。

A 県が新たな試みとして、民間人を2名採用した。民間企業の方法を取り入れた学校改革を目指すと考えている。今後、九重において、県より打診があれば検討したい。

Q 学校での食育の取り組みを具現化するべきでは。

A 食育の重要性は認識している。積極的に推進するためにも、全課あげて取り組む必要があると考えている。また、「日本一の田舎

づくり」の土台に、食育は欠かせないテーマと考える。

Q 総合型スポーツの問題点と、体育指導員の活動状況は。

A これまで、学校教育との連携が取れていなかった。また、体育指導員は、地区体協や町体協、軽スポーツの普及等で活動してきた。

今後は、「夢クラブ」を通じて、学校教育との架け橋となるよう、努力したい。

飯田高原診療所

Q 新年度より、新しい医師が着任すると聞けが、勤務体制と地域医療の方針は。

A 勤務体制は、週4日を予定している。また、地域医療では、食育を中心とした健康などをテーマに、講演等も計画したいと考えて

いる。

九重夢大吊橋施設

Q 観光協会案内所の役割と活動状況は。

A 案内所は、旅館との情報交換が出来ず、観光客の誘致に繋がっていない。今後の大きな課題と考える。

Q 冬の寒さ対策は。

A 吊橋上では、風が吹き抜け寒さが厳しく、渡らない観光客がいた。

今回、試験的にピニールを、側面に張ったところ、大きな効果があった。来年度は、この結果を踏まえて、対策を講じたい。

Q 滝や河川への道路で調査費として100万円の予算を組んでいるが、目的は。

A 緊急時や、滝への散策道が無いため、対

応に苦慮している。急傾斜地に、対応可能な道路を作成するための予算を考えている。

給食センター

Q 食材の地元調達率を高めるべきでは。

A 地元産の食材を常に意識して使用しているが、数量の安定化や調達方法に課題があると考えている。

Q 備品購入費330万円の内容は。



地産地消が望まれる学校給食センター

A 現在使用している食器は、強化磁器食器を使用しており、割れやすく、運搬、配膳等で問題があると考えている。PEN（ペン）食器は、軽くて使用しやすく、アンケート調査でも表れている。

商工観光課

Q 平成22年度予算で、観光協会に1450万円の予算計上しているが、中身について問題があるのでは。

A 観光協会は、事務所を役場内に設置しており、これまでも指摘をいただいている。また、予算執行にあたり、観光協会と観光課で曖昧な部分を今後は明確化する。

また、観光協会に独自性を持たせ、自律の町にふさわしい協会になるよう、側面より支援していく。

大吊橋周辺対策特別委員会 (中間報告)

今回の報告は大吊橋の指定管理が「九重鳴子物産」から「JA飯田」に交代し、その引き継ぎ状況を中心に審議した平成21年からの委員会の主な内容について報告します。

▼21年1月29日
執行部より 指定管理について審査委員会を設けて審査した結果、指定管理者の候補者をJA飯田に決定したことの報告があった。

▼21年2月10日
執行部より 2月2日の臨時議会でJA飯田を指定管理者に議決をしたが、2月9日に協定書を締結し、バーコード作成や新たな出荷者協議会の立ち上げの準備を進めていること等の報告、施設の引き継ぎ等については原則、原状回復という確認。

▼21年3月18日
執行部より 2月28日鳴子物産の三役と話し合いをし、電気や看板等そのまま引き継ぎたいとお願いしたが、13日の役員会の結果すべて原状復帰するとの通知。
特別委員会としては、必要な金は臨時会を開いても予算を執行することを了解する。

▼21年4月22日
3月18日の議会最終日の全員協議会で「壊してまた同じものをつくるのはおかしい」との意見があり、鳴子物産三役と町長らが話し合いを持った。4月1日のオープンができるようにと、月に38万円のリース料を払い、あるものは壊さずに使う方向で話し合ったとの報告を受ける。
特別委員会としては、条件付きでなく買取で、早急に話を詰めるよう依頼した。

▼21年5月7日
執行部より 4月28日に鳴子物産と協議したが、月々のリース料を44万5千円に値上げし、自動販売機を全部管理、ソフトクリームの部分を委託、写真業務をさせてほしい等の要望で、町としては、すでに4月から写真、自動販売機等、契約しているのので、要望はお断りしたとの報告。
特別委員会としては、あくまで原状回復し営業

できるようにと申し入れを行う。

▼21年6月16日
執行部より 施設等の取り壊しとその後原状回復は予定通り終わった。使用許可している写真業務と自動販売機については、入金が終わったが、鳴子物産との年度協定の中心にある売り上げの3%を基本とするという手数料については、リース料の残り等があるので加味してくれないかとの申し入れがあり、協議のために書類の提出を求めているとの報告がある。

▼21年6月19日
執行部より 5月31日付で鳴子物産より、指定管理終了後の支払経費、負担経費、多額の資金準備が必要で当社の税理士と協議した結果、使用料の支払いは困難との報告を受けた。
町としては協議の材料となる3月決算期における損益計算書、販売書、一般管理費内訳書、貸借

対照表等の提出を求めたが、決算書の提出は基本協定に記載されておらず、提出はできないとの報告があった。

▼21年9月11日
執行部より 鳴子物産の税理士に決算状況、貸借対照表などの文書を請求したが、文書は出せないとの返事があり、口頭で報告すると言うので、税理士に会い数値を聞き取りながら資料を作った。町としては3%の支払い是不可能ではないと判断しているとの報告がある。

▼21年12月14日
執行部より 前回以降の経過の報告があり、現在町の顧問弁護士が協定書の内容を全部チェックして、資料のやり取りをした。最終的にもう一度協議の申し入れの文書を発送すること。委員会の中で、何らかの方法で話し合いはできないか、との意見も出たが、今のところ、これ以上方法がないとのことである。

▼22年2月15日
執行部より 22年1月20日付けで、九重鳴子物産株式会社と併設から、貴町より本書面において請求されており使用料の支払いには応じかねます。と文書が届いたとの報告がある。委員会としては、今後、町が裁判をしてでもけりをつける意向があるのか、再度話をするのか、意志を聞いて判断したい。

▼22年3月10日
これまでの経過を振り返り議論した結果、特別委員会としては前年度の指定管理者との問題については、町の責任において速やか解決を望むということで見解の一致を見たので、本委員会に付託された審査事項のうち、前年度の指定管理者との問題についての審査を終了したい。
以上、3月10日までの大吊橋周辺対策特別委員会の中間報告とします。

5名が一般質問

ここが聞きたい!

ズバリ町政を問う

一般質問の録画放送

平成22年3月16日(火)に開催されました3月定例会の一般質問について、左記の日程により、このえけいぶるテレビで録画放送しますので多くの方が視聴されますようお知らせします。

放送日時	放送時間	議員名
4月19日(月)	10:00~11:00	佐藤博美議員
	15:00~16:00	
4月20日(火)	10:00~11:00	井上里子議員
	15:00~16:00	
4月21日(水)	10:00~11:00	江藤一幸議員
	15:00~16:00	
4月22日(木)	10:00~11:00	小川克己議員
	15:00~16:00	
4月23日(金)	10:00~11:00	藤原三治議員
	15:00~16:00	

九重町に住みたいが住む場所がない

民間の活力を引き出す方向も検討



佐藤博美

佐藤 2年前から家賃助成を行っているが、定住促進になっているのか?

九重町の場合、住みたくても住むアパート等がない。建設に対して助成や、固定資産免除、空き家の改修費の助成をすべきでは。

町長 中村住宅は今年設計をし、来年度は建設を予定している。九州商事からいたいたものはPFI等民間の活力をお願いして建てるような方向も検討していく。

※「PFI(Private Finance Initiative)」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法です。

子牛価格支援事業でできるだけ早い支給を
新年度予算であり、まず議決を

佐藤 子牛価格が人件費を除いても採算割れである。年度末を迎え厳しい本場に必要時に支給できないか。

町長 厳しい事は理解をしているが、玖珠町と違って新年度予算で提案をし、議決もいただいてない今の段階では言える状況ではない。

学校給食に地元産品を

地産地消に努める

佐藤 学校給食に安全な地元産品をもっと多く使用するべきでは。又、食の大切さを子ども達に伝える努力を。

町長 町内生産の農産物は米が15トン、野菜類が3トンの使用実績である。今後生産者等に運営委員会に参加してもらい地産地消を進めたい。

日本一の田舎づくり 地域リーダーの発掘と若い世代の育成を

引き続き力を入れて取り組む



井上 里子

井上 日本一の田舎づくりの重要課題として、22年度も引き続き、地域リーダー（人材）の発掘と、あわせて、まちづくりを担う若い世代を広く育成することに力を入れるべきである。

町長 本町には、昔からいろんなリーダーが居てこれまでできていますので、そういう人たちに、今一度前面に出てリーダーになってもらうよう取り組んでいる。

また、次代を担う若者や子どもたちが、町に誇りを持つことが一番大事なので、町自慢の発掘や、伝統芸能、料理、その他のものを受け継いでいかせることが大切である。これからも人づくりに力を入れていく。



日本一の田舎づくり講演会（3月8日）もっと若い世代への参加の呼びかけが望まれる

幼保一体化施設は現状どおり各地区に白紙の状態での議論をはじめめる

井上 22年度に、幼保一体化施設整備検討委員会が設置されることになったが、一体化施設は、現状どおり各地区に一園ずつ建設することを望む。

教育長 幼保一体化施設の建設は、過去に、全町に一カ所という考え方も出されたことがあるが、それは一たん白紙に戻して、基本的に現在の場所でするかということにスタンスをしながら議論している。

支払い精算時で良いのでは

38万円で借用



江藤 一幸

江藤 大吊橋物産館の施設備品等を4月一カ月間借用、その理由と成果は、使用料は、最終精算時で良かったのでは。

町長 鳴子物産が設置した施設等、3月中にはすべて現状復帰すると回答が来た。

撤去される施設、備品、電源等、その復旧には設計等期間が必要のため、休業を避けるために月額38万円の使用料で一カ月間借用した。この事により休業して、工事は3日間

未収金あるのか

1763万8708円請求

江藤 鳴子物産の未収金となった経過と、その金額及び今後の対応は

町長 協定書に基づき納入額（寄付金）を決定したが、納入不可能との通知があり、鳴子物産の税理士に決算内容の説明をうけ、町では協定書の基本である売上の3%は可能と判断、協議の申し入れを行ったが、応じてもらえず、半年が経過、12月22日付で、3%分の1763万8708円の請求書を送付し、協議を申し入れた。



指定管理者（鳴子物産）による大吊橋直売所（期間：18年7月1日～21年3月31日）

済ませた。

学校教育の現状と課題

教育環境の改善を図る

小川 克己



小川 中学校で一部学級崩壊の状況があると聞くが要因は。

全国学力テスト等、下位にある。学力の向上策や家庭の教育力を高める策を伺いたい。

また、高校への進路を見ると地元高校へは57%しか進学してない。このままでは地元高校の存続は厳しいが対策は。

給食費の滞納も多いが4月から支給される、子ども手当で活用できないか。

町長 基本的な生活習慣や学習環境の改善を図りたい。学力は昨年と比較すると向上している。問題行動もあるが、現場と密に連絡をとり学校教育支援員と共に協力したい

が指導主事の配置は喫緊の課題で複数体制を整えたい。高校進学については両高校のよさを我々がPRし、中学と高校の交流を図りたい。子ども手当については差し引く事は制度上でできないが徴収に努力したいし、法的に給食費の無料化を制度化してもらいたい。



基本的な生活習慣や学習環境の改善が期待される

藤原 三治



藤原 景気低迷により、

農林業の所得が低下している。近年、高値で『タケノコ』の注文があいついでいる。県の100%補助事業の竹粉碎機を導入し、竹林整備事業を活用して、竹の子と竹材生産に取り組めないか。杉松等に比べ、毎年収入が反当り3〜15万円位見込

農林業の所得向上対策は

調査研究して対応したい

める。また農産物加工所の設置も考えてはどうか。

どうやって売れるかが問題だ。町としてできるだけだけの事はやって行きたい。

町長 農林業の単価の低迷による所得の減少は理解している。山林の植林放棄は12haにのぼり、荒廃が進んでいる。国と県の補助金を利用して植林して頂きたい。

竹林整備は、昨年アンケートを取ったが、希望者が少なかった。町民の関心が高まれば取り組んで行きたいと思っている。

食品加工所については、今まで工夫して特産品を開発してきたが、

藤原 不審火や防災、交通指導、学校統合で予想される遠距離、少数通学の生徒の安全、高齢者の巡回などに青色パトを公民館等に配置し、ボランティア団体等に利用してもらえないか。

町長 行政が使用するには時間に限界がある。可能性をさぐり、必要なら、検討したい。



有効利用できないか。農協食品加工所

わたしのひとこと

未来への架け橋

宝泉寺

関屋 典子



3月のお福祭り期間中の毎週土曜日に「農業」「商業」「観光」を一つにしたイベントを初めて宝泉寺温泉で行いました。九重町は豊かな土壌を利用した農業が盛んですし、綺麗な空気の中で育った牛達、高原のゆったり流れる時間の中で創作活動を行う作家の作品など、温泉や九重「夢」大吊橋の他にも素晴らしい地域資源が沢山あります。今回町内のあらゆる職種の皆様にご協力をいただき、宝泉寺を訪れた方々に新鮮な野菜や穀物を使用した菓子、豊後牛、工芸品などの特産品を紹介することで、九重町の素晴らしさを知ってもらえることができました。

また農業や畜産、職人の方など様々な分野で活躍している方々と連携できたことは私にとって大きな財産になりました。

私は大分県ツーリズム大学の卒業生ですが、そこで学び得た町づくりの第一歩であったこの取り組みをきっかけとして、今後地域を愛するこれらの方々と共にネットワークを形成し、新しい元気な九重町を共に創っていければと考えています。



初めての開催、宝泉寺「お福祭り」

ケーブルテレビの活用を

松木 川下南

梅木 淳司



CATVサービスが始まって約一年。

インターネット回線が高速になったおかげで私の周りも随分便利になりました。建築業なので建材のカatalogをダウンロードしたり、メールでの写真のやり取り等も改善され、沢山のメリットがあります。

しかし、インターネットを利用しない世代には恩恵が少なく感じられますので、もっとケーブルテレビの活用を広げるべきだと思います。

例えば、KCTの番組を普通に見てる人は多くても、データ放送ボタンを押す人

は少ないのでは無いでしょうか？

現在でも町からのお知らせ等見られますが、さらなる充実とPRが望まれます。

今後テレビは身近な情報端末として進化すると思うので、双方向通信などを利用し、町民から情報発信できる仕組みを研究すれば、さらなる活用に繋がると思っています。

ケーブルテレビでの議会放送も期待しています。

また議会や所信表明の様子は、ホームページなどから動画配信も出来るのではないのでしょうか。

身近な情報発信は「日本の田舎づくり」に繋がります。キーワードだと思います。



ケーブルテレビ等で情報を

思い出のアルバム No.1

傍聴へ どうぞ

次回は6月上旬予定



昭和12年から47年間、多くの人や資材を運び活躍した宮の原線
栗野鉄橋上を走るディーゼル車。(写真提供：内恵克彦氏)

議
会
だ
よ
り
こ
こ
の
え
NO.89号



発行／九重町議会
編集／議会広報特別委員会
平成22年4月17日
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
メールアドレス (議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp.

お手持ちのなつかしい写真をお貸しく下さい

編集後記

卒業や、入学シーズンを迎え、別れや出会いが生まれる、そんな季節となりました。人それぞれに、心の中で新たな緊張が生まれ、身の引き締まる思いでしょう。

今回、広報委員で新たな取り組みとして、「議会だより」の中身を一新し、多くの皆さんに見ていただけるような、そんな広報誌を目指しました。皆さんの御意見等を聞かせていただきたいと思えます。

今、世の中の仕組みが、大きく変わろうとする時代ですから、その体制を築くことが必要不可欠となりました。その一方で、これまで地域での伝統や文化や生活など、守っていかねければならない事も、沢山あると思えます。人口が減少し、過疎化が進行する中で、人と人との縦や横の関係をもう一度、再構築する事が大切と考えます。

日野 康志

- ・ 広報委員長 竹尾 允文
- ・ 副委員長 藤原 三治
- ・ 委員 小川 克己
- ・ 委員 江藤 一幸
- ・ 委員 佐藤 博美
- ・ 委員 日野 康志